

# 指導者検定の指導種目について

※指導者検定の指導種目について、「受講生に伝えたいことを明確に表現する」ことができていない受検生が見受けられます。種目の要領をこなすだけでなく、何を伝えたいのか、どこを見せたいのか、ということを確認に表現できるよう、種目の理解も合わせて養成講習などで指導をお願いします。

## ■スイング to スイング

サイドを入れ換えるタイミングを指導する際のデモンストレーションです。まだフォールラインヘノーズを向けていくことに恐怖心がある受講生に向けて、減速しながらスノーボードをフラットにしてサイドを入れ換えることができることをしっかり表現しましょう。そのために、どのタイミングでサイドを入れ換えているかを明確に表現する必要があります。斜面を切れ上がる必要はありませんが、スノーボードがフラットになる瞬間を確実に見せてください。

## ■トラバース～ジャンプ

斜面で滑走しながらジャンプできる足場づくりと、ジャンプのための動作、着地のためのバランスなどを明確に表現しましょう。これは受講生に対して、滑走しながらジャンプするためにはどのような要素が必要かを表現する能力が問われます。

- ・安定したジャンプのための足場づくり
- ・雪面から完全にスノーボードが離れるジャンプ
- ・安定したジャンプと着地

これらを明確に表現するには、他者が見て分かるくらいの演技が必要です。スノーボードが雪面から完全に離れる演技を行ない、明確なジャンプを表現しましょう。踏み切る脚は、前脚、後ろ脚、両脚、どの方法でも構いません。2級の模範滑走程度のスピードの中で滑走を妨げず、さまざまな動作が行なえるバランス感覚と技術表現を明確に行ないましょう。

## ■トラバース～スピン

スノーボードをなめらかに動かす技術の評価します。スピンを正確に判定するために、開始するサイドと回転方向が指定されています。決められた順序で、正確かつなめらかな一連の回転を行ないましょう。この種目の目的は、スピントリックとしての側面よりも、斜面に合わせたなめらかなスノーボードの取り回しです。使用しているスノーボードの形状やフレックス、トーションなどがスピン系トリックに不向きだとしても、スノーボードを自在に操る技術は必要です。斜面を滑走しながらスピンするので、スノーボードは必ずしもフラットに接雪していません。自分が乗っているサイドがどちらか、エッジが引っ掛からないようにするトーションの制御など、3次元的なスノーボードの制御が必要です。